九州大学
大型計算機センターニュース
No. 159

1978. 3. 20

福岡市東区箱崎6丁目10番1号
九州大学大型計算機センター
共同利用掛(TEL092－641－1101)
内線 2256

目　　次

◇ 運用方式の変更について……1

◇ TSSでのHLISPの利用について……3

◇ 運用方式の変更について

センターニュースNo.158でお知らせしたように昭和53年4月1日から利用負担金，ジョブ制限値が一部変更されます．また以下の点についても機能追加，処理内容の変更等がありますので利用の際には，十分にご注意ください．

1. 出力検索

新機能で，デマンド出力待となった計算結果を実際に出力する前にディスプレイ装置の画面上に表示して，そのチェックを行うことができます．ディスプレイ装置（5台）はハードコピー装置（1台）とともに2階ロビーに設置されています．ディスプレイ装置の利用は1回30分以内で，ハードコピー枚数は10枚以下です。

なお，出力検索について詳しくは，広報Vol.11. No.1，〃出力検索システムの利用について〃を参照ください．

2. 印字付きカードパンチ出力

カードパンチ出力で印字も行えるようになります．印字はDD文のDCBパラメータで次のように指定します．（DCBパラメータを指定しない場合，印字は行われません）．

//DD名　DD　SYSOUT＝P，DCB=FUNC=I

なお，従来連絡所送りのジョブでカード出力がある場合，センターで無条件に印字を行っていましたが，今回からは上記のようにDD文で指定していただくことになります．

3. システムメッセージ出力の変更

i) 出力レベルの省略値

JOB文のMSGLEVELパラメータの省略値を，（1，1）から（2，0）に変更します。これによって，リスト上には，カタログドプロシジャの展開形や入出力装置の割り当て，後処理に関するメッセージは出力されなくなります.

ii) 制御文エラーの説明文追加

ジョブ制御言語のシンタックスエラーを除くエラー原因について，次のようなメッセージをリストの先頭に出力します.

LOG　　0023***SUPPLEMENTAL JCL ERROR CODE = 09

コードの意味については，下記のとおりです.

コード	意味
01	EXEC文で指定したユーティリティは使用できない.
02	データセットに対する保存期間の指定はできない.
03	ジョブステップ異常終了時のデータセット後処理（DD文のDISP第3サブパラメータ）として，DELETE以外は指定できない.
04	データセットの新規作成に対して，UNITパラメータを省略しているか，または，センターで定めた装置名を指定していない.
05	直接アクセス記憶装置では，データセットの新規作成時に，後処理に関する指定（DISP第2サブパラメータ）で，“KEEP”の指定はできない.
06	既存のデータセットを使用する場合の後処理として，“CATLG”，および，“UNCATLG”は指定できない.
07	当ジョブクラスでは，指定した装置は使用できない.
08	直接アクセス記憶装置上に保存データセットを新規作成するとき，装置名を，“PUB”と指定していないか，または，データセット名の先頭を，当ジョブの課題名（F*nnnn*）と一致させていない.
09	直接アクセス記憶装置上に保存データセットを新規作成する場合，既に存在するデータセットと同じデータセット名を指定してはならない.

4. XYプロッタの制限値について

XYプロッタの利用時に，ジョブクラスごとの打切り（紙長および使用時間）をする際には，従来，実行時のパラメータとして▼PSP▼と指定する必要があったのが不要となります.

なお，各ジョブクラスで，制限値以内で打切りたい時には，従来と同じく，以下のように指定してください．

（例）　Bジョブ（制限値：紙長500 cm，使用時間30分）の場合に，紙長250 cm，使用時間15分で打切りたい時

```
//  EXEC  FORTCLG , PARM . GO = ▼PSP(LNGT = 250,  TIME = 15)▼
```

5.　TSS関係

1)　完全修飾名を用いてのデータセットの共同利用が可能になります．

2)　会話形リモートバッチジョブを依頼するときに，JOB文のMSGCLASSの省略値がR（端末出力）からA（センター出力）になります．

（業務掛　電（内）2244）

◇　TSSでのHLISPの利用について

HLISPがTSSでも利用できるようになりましたのでお知らせします．コマンド名は"HLISP"で使用方法は次の通りです．

```
READY
HLISP
〔システムからのメッセージ〕
RESTORE(30)
[                          ]
[ データの入出力           ]
[                          ]
/*
```

<注意点>

1.　最初のデータとして，RESTORE(30)が必要です．

2.　処理の途中でエラーが生じた場合，"/*/"を入力して処理を正常に終わらせることが必要です．アテンションによる処理の終了の場合，いくつかのデータセットが割り当てられたままとなりますので同一セッション内では，再びHLISPコマンドを使用できなくなります．

3.　HLISPについては，センターニュースNo.155　"HLISPについて"も合わせて参照ください．

（業務掛　電（内）2244）